

厳しい雇用状況が続くなか、本年4月に所長として着任された小林誠さんに、管内の求人・求職状況等について伺いました。

寄り添う

ハローワークとって

依然厳しい雇用状況

新型コロナウイルスの影響で、求人・求職者数ともに減少気味でしたが、最近じりじりと増加傾向が見られます。しかし、加古川所管内の有効求人倍率は平成30年度からの3年をみると、1.13↓0.99↓0.75と、求職が求人を上回る厳しい状況です。

産業別の対前年比の求人状況を見ても、建設業は増加していますが製造業はマイナス27.1%、宿泊・飲食サービス業に至ってはマイナス30.2%と、事業所

の皆さんが非常に厳しいなかで事業をされていることが見てとれます。

そういった現状を踏まえ、当所としても来所される方々にしっかりと向き合い、対応していかねければなりません。しかし、雇用保険の手続きなど時間がかかることもあり、各部署とも業務をスムーズに進められるよう努めておりますが、ご相談は時間の余裕を持ってお越しいただければと思います。

IT活用で就業促進を

昨年の夏ごろから、求職者の方々の動きが活発になり、紹介件数は増えたのですが就職に結びついた方は、一昨年と比べるとマイナス14%と低調でした。これは、新たに職種転換するものの、例えばサービスから製造業など今までと全く違う業務に就くということや、うまくマッチングしなかった要因の一つでもあります。ここ最近は紹介状をお渡しする際にワンポイントアドバイスを加えるなど、さらに丁寧な職業相談により紹介成功率も上がってきています。また、職種転換のための職業訓練の希望者も増えてきていますので、当所としてもできる限り、求職者の就職につながるように対応していきたいと考えています。

最近では、コロナ禍で実家からオンライン授業を受けている大学生が、オ

ンラインでの職業相談を希望することが出てきました。テレワークなどの昨今のIT事情を見ても、ITに長けた職員を育てておかないといけないな、と実感しております。

ハローワークでは求人・求職それぞれWEB上にマイページというものを作ってもらうことを進めています。作っていただくと、企業はわざわざこちらに足を運ばずに求人票の提出が出来る、オンラインで求職者の情報を得たり、全国でマイページを持っている者同士のマッチングも可能となります。そのためにも、できるだけ多くの方にマイページを作ってほしいと思います。

寄り添える機関として

私は着任当初から、『来所者を笑顔で迎え、笑顔で帰っていただく』というのを取組方針に掲げています。明るく仕事をすることを心掛け、情報を何か一つでも掴んで帰っていただき、来てよかったと思えるようなハローワークを目指していますので職員は日々、来所者から笑顔をもらうためには何をすべきか、どうすれば実現できるかを考えながら業務を行っています。

飲食業を含め経済はまだまだ厳しい状況が続くことが予想されます。厳しいなかでも寄り添える、需給調整機関としての役割を果たしてまいります。



加古川公共職業安定所
こばやし まこと
所長 小林 誠 さん